精神性の獲得と芸術の役割

高橋　正次郎

人類の発生と発展の歴史

最初の人類アウスラロピテクス（猿人）

植物食中心小動物も含む、打製石器の製作および使用はすべての構成員に伝播している、このことから言語によるコミュニケーション（シグナル段階）と知覚の能力が推定される（生息地は熱帯/亜熱帯地域に限定）

原人

火の使用、集団行動・活動範囲の拡大・大型動物の狩猟（共同作業を可能にするだけの言語能力を持つようになる）

旧人

直立二足歩行の完成、道具をつくるための道具（衣服の加工）、コミュニケーション（シンボル段階）、洞窟だけでなく平地に住むようになる。死者の埋葬（精神的行為）

新人　生活が向上していくにつれ狩猟や採集の豊かなことを望み絵画や彫刻が生まれた。
これらの壁画は誰もが描けるわけではなく特殊な技能の所有者の存在をうかがわせる。
このころには音楽・歌・踊りも発達し職業的な分業もうかがえる。

洞窟壁画の特徴と謎

始めの芸術として洞壁画が生まれた。2～3万年前もの昔に岩石を砕いてつくった顔料を獣脂で練った絵の具が使われている。最近の学説では単に狩猟の成功の祈願ではなく呪術的・宗教的意味合いを持つといわれている。なぜなら、壁画が製作された時代には牛や鹿・馬などの動物は狩猟の対象ではなかったことがわかってきたからである。

壁画の特徴として大型哺乳類とくに草食獣を中心に描かれている。肉食獣の絵は描かれておらず、一方で装身具には肉食獣の歯が高い割合で使用されている。壁画には自然界に存在しない幾つもの人間と動物が合体したような絵が書かれている。

支配する側	動物界の頂点である大型肉食獣	力の象徴
支配される側	支配するものを支えている草食動物	感謝と繁栄の象徴

芸術における段階（精神の段階との対比）

芸術以前　動物にもみられるように威嚇のための奇声や胸を鳴らして感情（喜びなど）をあらわす行為、また求愛の手段としての音とリズムが存在している。この段階では自衛手段や種族繁栄のための本能的行為に過ぎない。動物との境界線はない。

本能的行為から意味・思想をもった行為へ

1. 人類における最初の芸術は儀式的な行為（自然崇拝主義）に密接に関連していて　狩の成功や祈祷を意味していたと言われている。ダンスや舞踊に生活の行動が形象されている。当然、足を踏み鳴らしたり伴奏として流木を叩いたりして打楽器の前身も生まれる。

2. 絵を書くという行為は動物的には非生産的なものであり意味の無いものである。なぜ古代人は絵を残したのか。絵を書くという行為は鋭い洞察と創造性が必要になってくる。絵を書くということは万物を支配する行為そのものである。鉱物を砕き顔料にしたり、木炭を作り線を描く、対象となる動物をキャンパスに写す、そしてそれは永続性を獲得する。描かれた物は単なる写実ではなく特別な意味合いをもつ。抽象表現できるようになり次世代へと残される。

次の段階になると意思伝達のための言葉を獲得することによって歌や物語を創造することができるようになる。（口頭伝承）ダンスや言葉、舞踊などにより演劇の要素が生まれる。
より具体性をもつようになる。その時代の社会性を反映している。

芸術における変わらない本質

芸術の課題

芸術の課題とは観客の思想と感情ばかりでなく、創造力にも訴えかける事であり、この創造力を駆りたてて予期しなかった方向へと、観客にとって新しく近づき難いと思われていた方向へと踏み出させるものにある。

芸術の目的

芸術の目的とは人間の内面的な世界と性格を表現することであり、変貌を遂げつつある人間の性格と過程を解き明かし、今後発想される思想を解き明かすことにあるのであって、事実の検証にあるのではない。出来事を直接芸術作品に移すことは単に事実に関する社会評論的なものになってしまう。芸術にとって重要なのは人間の真理でありその世界観であり、その新しい特質にある。

古い芸術　-　絵画・音楽・演劇・彫刻・舞踊
新しい芸術-　写真・映画

しかし、残念ながら我々の生活（魂）の本質を表現するのではなく、重大な主題の解決を経済問題やイデオロギー（政治や社会に対する考え方）問題だけで脚色している作品が数多く存在する。作品の中に織り込められた人間の葛藤とそこに見え隠れする人間の崇高な精神の輝きを表現できないときそれは表面的で薄っぺらなモラル（暴力はいけない・テロは撲滅しなければいけないなど）に成り下がってしまう。モラルは具体的で目の前にある。しかしそれが思想を裏切るときわめて危険なものになる。観客を混乱させ歪め彼らを俗悪・愚劣へと導きかねない。

作品の現代性

そして芸術はいつの時代でも現代性を目指しこれまでの既成の倫理をやぶってきた。現代性とはその時代にあった倫理や思想を発見することであり、人間の本質をとおしてのみ伝えられるものである。芸術は過程であり常にその作品の中に新しい思想・新しい表現手段を探し求めていくことである。

芸術の境界線

写真、映画、ラジオ、テレビを考え出したのは芸術関係の人々ではなく学者や技師たちである。最初それは技術的な発明だったがのちに芸術となった。科学と技術と芸術の結びつきはますます複雑に緊密になっていく。たとえば建築がすでに彫刻と親戚になっているように。それぞれの芸術間の障害も崩れ去り形式やジャンルの境界線は消え去ってきている。

まとめ

すべてのものは人間のために創られ、人間は神のために創られました。人間は他の創造物よりもすぐれています。精神の五つの段階に象徴されるように鉱物･植物･動物･人間･聖霊があり、人間はこの四段階に相当します。人間は二つの面をもっております。精神的な面と世俗的な面です。人間の精神性は洞察をとおしてまだ知られていないものを発見していく力を与えられています。創造性という神の恩恵がなければ科学･技術･芸術はありえないのです。それこそが人間の発生推進力であり喜びであります。人間が子宮という世界でこの世で必要な能力を潜在的に与えられたようにこの世では神を知ることを潜在的に与えられているのです。

参考文献

アブドル･バハ、「大樹の泉」、人生の収穫、豊かな精神、行動の目的 p.73,74
同上、試練 7、p.108
アブドル･バハ、「質疑応答集」、精神の５つの段階 p157 、神の顕示者の知識 p.175
Abdu'l-Baha, Div*ine Art of Living* 子宮で目･耳が与えられているp.18-20
バハオラ、「アクダスの書」、51番、音楽についての言及 p.20
バハオラ、「落穂集」、p.64,65
Lights Of Guidance 1007 The four Canine Teeth in Man p.296
尊田望、「二十一世紀へ向けて：バハイ世界共同体」、人生の目的 46.47